

第4回日本スポーツグランプリ受賞者(功績)

1.	わたなべ げんたろう 渡邊 源太郎	(男性)	92歳	兵庫県	陸上競技	活動歴：75年	顕彰対象区分(1)
<p>18歳から陸上競技をはじめ、実業団においても陸上競技を続け活躍した。第1回全日本マスターズ陸上競技選手権大会から29年連続出場し、60m2回、100m10回、200m18回、400m19回、80mH1回、300mH3回、400mリレー1回の計54回の優勝を果たした。さらに、アジアマスターズ陸上競技選手権大会に4回出場し400mや400mリレーにおいて優勝、世界ベテランズ陸上競技選手権大会には7回出場し、400mリレー及び1600mリレーにおいて優勝している。現在、M75クラス(75～79歳)400mリレー及び1600mリレーにおいて日本記録、M80クラス(80～84歳)の400mの日本記録、1600mリレーの世界記録保持者である。</p>							
2.	あさみ よりこ 浅海 頼子	(女性)	80歳	山口県	卓球	活動歴：62年	顕彰対象区分(1)
<p>20歳から卓球を始め、第5回・6回・8回国民体育大会出場を果たした。昭和56年から全日本卓球選手権大会マスターズの部などに28年連続出場し、平成16年の第12回世界ベテラン卓球選手権大会ではシングルスで優勝、ダブルスでも3位と活躍した。平成18年及び19年には全日本卓球選手権大会マスターズの部において75歳以上の部、平成20年には80歳以上の部において準優勝となるとともに、平成20年の第14回世界ベテラン卓球選手権大会では、シングルス準優勝、ダブルス優勝を果たした。80歳に至る現在も現役卓球選手として競技を続け、日本選手権大会、世界選手権大会とも優勝を目指し日々練習に励んでいる。</p>							
3.	いわつぼ とおる 岩坪 徹	(男性)	81歳	北海道	馬術	活動歴：72年	顕彰対象区分(1)
<p>8歳から乗馬を始め、21歳の時に馬術競技を開始し、昭和35年(1960年)開催のローマオリンピック障害馬術の国内予選会に出場した。昭和55年の京都大学銀蹄会大会では大障害飛越種目において準優勝、同年の滋賀県大津馬術競技大会では同種目で優勝をはじめ、第10回国民体育大会では馬術競技大障害飛越種目で優勝、翌昭和56年の京都大学銀蹄会大会においても同種目で優勝を重ねた。さらに第11回国民体育大会馬術競技で同種目準優勝、関西馬術競技大会でも同種目優勝を果たした。80歳を超えた今なお、馬術の研究と実践を怠ることはなく、生涯鞍数(調教・騎乗回数)は累計51,400鞍を超えるなど活躍している。</p>							
4.	おおたに ひでゆき 大谷 英之	(男性)	86歳	兵庫県	ラグビーフットボール	活動歴：70年	顕彰対象区分(1)
<p>12歳から陸上競技に親しみ、17歳の時からラグビーを始め、社会人時代には阪神電気鉄道に所属し、大阪実業団大会などにおいて活躍した。その後大阪クラブにおいてラグビーを続け、関西地区クラブ大会に10年連続で出場した。昭和41年には第15回三惑対抗ラグビー大会に出場して以来、平成20年の第58回大会まで44年連続出場を果たし、86歳となった現在でも生涯現役ラグーマンとして今なお活躍している。ねんりんピックにおいては、平成12年の第13回大阪大会及び平成17年の第18回福岡大会において高齢者賞を受賞している。</p>							
5.	なかや うさぶろう 中屋 卯三郎	(男性)	96歳	岐阜県	ソフトテニス	活動歴：81年	顕彰対象区分(1)
<p>15歳からソフトテニスを始め、戦前時代には明治神宮大会などの全国大会に出場した。昭和22年の全日本ソフトテニス選手権大会では第3位となるなど活躍以来、国民体育大会には岐阜県代表として出場し、第7回・11回大会において第5位入賞、第8回・19回大会において第3位となった。その後、全日本ソフトテニスシニア選手権大会や全日本超壮年選手権大会に出場し活躍する一方で、自ら「テニスマンクラブ」を結成し、同クラブにおいて96歳となった現在でも現役として競技を続けている。</p>							
6.	なかむら けいじろう 中村 敬次郎	(男性)	86歳	東京都	水泳	活動歴：76年	顕彰対象区分(2)
<p>小学生の時に浜名湖で水泳を覚え、以来水泳を続けてきた。69歳の時から現在に至るまで17年間にわたりマスターズ水泳大会において日本記録149個、世界記録85個を樹立した。平成21年1月1日現在において、80歳～84歳及び85歳～89歳の部50m・100m・200m背泳ぎ、100m自由形、85歳～89歳の部50m自由形、320歳の部男子及び混合200mフリーリレー・メドレーリレー、280歳の部混合200mフリーリレー(以上長水路)、80歳～84歳及び85歳～89歳の部50m・100m・200m背泳ぎ、50m・100m自由形、320歳の部男子200mフリーリレー・メドレーリレー、混合200mフリーリレー(以上短水路)の個人19種目、リレー4種目、合計23種目のマスターズワールドレコードホルダーである。</p>							

7.	<small>なかむら たもつ</small> 中村 保	(男性)	74歳	東京都	山岳	活動歴：57年	顕彰対象区分(3)
<p>大学入学と同時に山岳部に入部し、先鋭的な登山を目指し数多くの実績を残している。特に、昭和36年にはペルー・プランカ山群・ボリビア・プヤ登山隊に参加し、初登頂に成功した。その後、平成2年から平成20年までの18年もの長きに亘り、未知の東チベット踏査探検を続けた。東チベットは世界の探検地図でも空白部分であり、長く外国人に開放されず、中国人も体系的な調査をしていなかったが、同氏は中国四川省からチベット自治区東部に分け入り、秀峰の数々を「チベットのアルプス」と名付け、写真や地図に記録し探検地図を作成するとともに世界にこの情報を発信した。この功績が認められ、170年の伝統を誇る英国王立地理学協会から「バスケットメダル」を日本人で初めて受章するという偉業を果たした。</p>							
8.	<small>しもかわら たかし</small> 下川原 孝	(男性)	103歳	岩手県	陸上競技	活動歴：81年	顕彰対象区分(3)
<p>高校の体育教師として、また陸上競技部の顧問として、生徒と一緒に運動・スポーツを行ってきた。教員退職後は、散歩や体操、腕立て伏せ、スクワット、腹筋などを毎日欠かさず行い、身体を鍛えた。98歳の時からマスターズ陸上を始め、平成18年の100歳の時に100歳以上の部円盤投及び槍投の2種目において世界新記録を樹立すると、翌年の平成19年には自己記録を更新し、再び世界記録を更新した。平成20年の102歳の時には砲丸投においても世界新記録を樹立し、現在投擲3種目において世界記録保持者である。これらの功績により、第27回から第29回全日本マスターズ陸上競技選手権大会において、3年連続で最優秀賞と最高齢者賞を受賞した。これは、全日本マスターズ陸上競技選手権大会では初の快挙である。</p>							
9.	<small>なかしま ゆたか</small> 中島 豊	(男性)	78歳	大分県	ウエイトリフティング	活動歴：56年	顕彰対象区分(3)
<p>大学3年生からウエイトリフティングを始め、国民体育大会に6回出場するなど活躍した。62歳からは全日本マスターズ選手権大会に出場し、平成11年に65歳以上の部62kg級において優勝すると、翌平成12年にも同部において優勝した。さらに、平成13年から平成17年まで70歳以上の部同クラスにおいて5年連続優勝、平成18年には75歳以上の部同クラスでの優勝を続けた。平成19年には参加選手の中で最高年齢選手となるが、75歳以上の部69kg級Aクラスにおいて優勝するという快挙を成し遂げ、9年連続優勝の偉業を達成した。世界マスターズ選手権大会では、平成10年から11年連続出場し、65歳以上の部62kg級で優勝1回、70歳以上の部同クラスで2連覇、日本人選手最高齢となった75歳以上の部でも2連覇の快挙を達成し、世界マスターズ選手権大会では計5回の優勝を果たした。現在男子62kg級Aクラスにおいてマスターズ日本公認最高記録保持者である。</p>							

注) 年齢：平成21年9月26日現在